

故 大谷吉秀先生のご逝去を悼む

国際医療福祉大学 吉田 昌
三田病院消化器センター（外科）



故 大谷吉秀先生

日本創傷治癒学会理事、埼玉医科大学国際医療センター、包括的がんセンター、消化器病センター、上部消化管外科教授、大谷吉秀先生は平成20年6月22日逝去されました。享年51歳でした。昭和56年に慶應義塾大学医学部を卒業したのち、慶應義塾大学病院での研修、同大学外科学教室でのトレーニングを修了し、昭和61年には米国ニュージャージー州立医科大学に留学されました。平成5年には慶應義塾大学病院外科にスタッフとして帰室。平成11年に専任講師、平成15年からは同大学卒業臨床研修センター副センター長を兼任されました。平成17年に埼玉医科大学病院消化器・一般外科教授、平成19年4月からは同大学国際医療センター教授に就任されました。

大谷先生はマトリックスを重要な研究テーマにおき、スキルス胃癌の成因や、消化性潰瘍の穿孔機序、matrix metalloproteinase inhibitorによる胃癌の転移抑制で世界をリードしていらっしゃいました。腹腔鏡手術の導入期においては、故大上先生と共にlesion lifting法（大上法）を確立し、腹腔鏡補助下幽門側切除術など、低侵襲または縮小手術の確立・普及に貢献されました。十二指腸潰瘍穿孔の手術においても腹腔鏡下大網被覆術における創傷治癒を臨床的に検討されました。さらに、私共後輩に腹腔鏡下大網充填術を確実にを行うアイディアを教えていただき、Periscope法へと発展することができました。胃のGastrointestinal stromal tumor (GIST) をはじめとする間葉系腫瘍の手術に関しては、欧米では腹腔鏡（補助）下手術の導入に否定的でありました。これに対し、大谷先生は腹腔鏡を用いた手術を安全に行うことが可能であることを示し、手術成績をSurgeryに報告しています。この成績が、現在日本を始めとして世界で数多く行われている間葉系腫瘍に対する腹腔鏡（補助）下手術の最大のevidenceとなっています。

筆者がチーフレジデントの時には、大谷先生に手術の基本をご指導いた



日本創傷治癒学会

2008.10
No.47

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel. 03-3353-1211

（内線62269）

fax. 03-3353-2681

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

だき、先生の拡大手術での集中力を勉強させていただきました。スタッフとして慶應義塾大学外科に帰室してからは、大谷先生の腹腔鏡補助下幽門側胃切除術に助手として必ず参加させていただき、腹腔鏡手術の技術を教えていただきました。今日も腹腔鏡手術を行っておりますが、大谷先生との臨床から学ばせていただいた技術が随所に生かされております。毎回、大谷先生を思いながら、後輩に大谷先生から教わったことを伝えながら、手術を行っています。その大谷先生がもういらっやらないと思うと悲しみに耐えられません。しかし、大谷先生の技術が本日も患者さん達を救っていることは、紛れもない事実として実在しています。

大谷先生は、平成5年に創傷治癒研究会の世話

人となり、平成13年に日本創傷治癒学会に発展した時期を、幹事として実質的な仕事で支えてくださいました。平成18年からは、日本創傷治癒学会のガイドライン作成ワーキング委員会担当理事として理事となり、学会を新たに指導していただき始めたところでした。日本創傷治癒学会は、臨床医学、基礎医学の連携を重要視する学会であるばかりでなく、幅広い臨床分野を横断的に融合する学会です。基礎的研究と臨床医学の双方に多大な業績を持ち、病態生理、腫瘍学など幅広い分野に精通した大谷先生に、多角的な視点から、ガイドラインの作成をご指導いただけることを望んでおりました。この点におきましても、悔やまれてなりません。大谷先生の思い出は数多くあり、書き始めると取留めもなくなりそうです。今はただ謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。



写真

第10回日本ヘリコバクター学会（会長：慶應義塾大学教授（外科）《当時》北島政樹先生）平成16年6月30日撮影
右から北島政樹先生（国際医療福祉大学副学長）と奥様、三浦淳子様、斎藤和久先生（慶應義塾大学名誉教授）、大谷吉秀先生、栗原直人先生（練馬総合病院）

ホームページにカラーの写真を掲載しています
URL: <http://www.jswh.com>

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume16 No.3に掲載されました。論文名、著者（筆頭執筆者）は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Blackwell Publishing Synergy Web site (<http://www.blackwell-synergy.com>)にありますWRR学会誌のページ、又は各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

市岡 滋 先生（埼玉医科大学 形成外科）

「A technique to visualize wound bed microcirculation and the acute effect of negative pressure」